

平成25年度『教育の情報化』推進 フォーラムが開かれました

教育の情報化推進フォーラム開催

一般財団法人コンピュータ教育推進センター（略称 CEC 理事長：赤堀侃司）は恒例の「平成 25 年度『教育の情報化』推進フォーラム」を 2 月 28 日（金）・3 月 1 日（土）の 2 日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟にて開催致しました（共催：一般社団法人日本教育工学振興会 略称 JAPET）。今年度はスマートフォンの普及とタブレットの発展を時代が求めるものとしてとらえ、統一テーマを「スマホ時代の学びと冒険」としました。

全ての都道府県から参加をいただき、教員・教育委員会の方々、教育の研究団体、教育関連企業関係者等、初日 850 名、2 日目 700 名、延べ 1550 名の来場をいただき昨年を上回る記録となりました。



写真：基調講演 180°撮影

多様化する ICT を日常の教育現場にいかにか活用していくか研究報告や体験学習、様々な実践事例の発表等を頂き意見交換を致しました。また、出展企業による自社の ICT 教材及びシステムの紹介などがありました。懇親会はレストラン「とき」に会場を移して、多くの皆様のご参加をいただき相互の情報交換を行うことができました。

全体会について

初日の全体会では、赤堀侃司理事長の主催者挨拶に続き、文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室室長水野晴央様、総務省情報流通行政局情報通信利用促進課課長佐藤安紀様、経済産業省商務情報政策局情報処理振興課課長補佐小池明様からご挨拶をいただきました。基調講演は、文部科学省生涯学習政策局情報教育課専門官大内克紀様より「教育の情報化について」と題し、平成 25 年度に学びのイノベーション事業

を終え、平成 26 年度の「ICT を活用した新たな学びの推進」とした先導的な教育体制構築事業の予算化の概要が紹介されました。500 名に迫る聴講者で座席の補充に大忙しとなりました。特別講演は、童話作家角野栄子様より「魔法はひとつ」と題し講演いただきました。初めて映画化された「魔女の宅急便」の公開も翌日からとあって大変な人気でした。昼休みの時間帯には ICT 夢コンテストの表彰式を開き、全国の応募の中から選ばれた各大臣賞・団体賞・CEC 賞等が表彰されました。今回初めて保育園から実践事例の応募もあり審査委員長特別賞を受賞しています。



基調講演：大内専門官



表彰記念撮影

多彩な分科会 ワークショップ・模擬授業も

分科会として、筑波大学土井隆義教授他「ネットのベターユース つながり依存とは何か？」では高校生に爆発的にスマホが普及する状況で、つながり依存と云う現象も起こっている課題が討議され、鳴門教育大学藤村裕一准教授他「ネット社会の歩き方、情報モラル指導体験ワークショップ」は数名のグループを作って情報モラルの授業案作成を検討し、各グループが発表を行いました。放送大学中川一史教授他「21 世紀型コミュニケーション力の育成と ICT 活用」では、タブレット端末を使って撮影したものを小学校では子ども達の「気づき」につなげ、中学では実験などの結果を撮影してそれを根拠に「説得・納得」のコミュニケーション力の育成授業のデザインを紹介されました。上越教育大学南部昌敏名誉教授他は「ICT 支援員養成、自



ワークショップ

己評価ルーブリックと解説書、実証研修の報告」で ICT 支援員ハンドブックを元に討論を続け ICT 支援員の方が自己目標を持ち、自己チェックができることを説明しました。また、ICT 夢コンテスト受賞者による「ICT 実践事例発表(学校部門、地域部門)」は、開催2日間にわたり発表を行いました。司会を5名の審査委員に勤めていただき会場からの質疑応答と司会からのコメントがなされました。周りに出展企業の展示があるなか、A 会場・B 会場を背中合わせに2日間で31件の発表が順次繰り返されました。アンケートの自由書欄の一つに「実践は学ぶことが多い、視点が明確化されているものが多くて良かった。司会の先生の進行コメントもとても良かった」とありました。分科会とは別に、出展社の中の10社による「我が社の“教育の情報化”関連事業」の発表を実施しました。展示を補う解説に各社熱を帯びておりました。



受賞者の実践事例発表

2日目の分科会は、放送大学中川一史教授他「21世紀型コミュニケーション力の育成、模擬授業・体験ワークショップ」が朝から始まりました。160名ほどの方々の内60名ほどの方々が体験されていました。アンケートに「やはり参加することが大切だ」と述べられ、ワークショップの体験を評価されていたようです。NTTグループによる「教育スクウェア×ICT、取組概要と実践事例のご紹介」、岐阜聖徳学園大学石原一彦教授「情報活用能力育成“移動コンピュータ教室での利用”iPad体験」など実践の紹介と機器持込の体験が展開されて理論討論だけの報告が少なくなっています。最後の全体会は、赤堀侃司理事長のコーディネートで、「どうなる！タブレット・スマホ時代」をテーマにパネルディスカッションを実施しました。パネリストは安来市立赤江小学校井上賞子教諭、青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター客員研究員齋藤長行様、柏市立中原小学校西田光昭校長、東京大学大学院橋元良明教授、元杉並区立和田中学校校長藤原和博様をお迎えしました。井上教諭から発達障害児とICT利活用、齋藤研究員から青少年がインターネットの脅威に対する回避能力、西田校長は初等教育で情報やメディアと付き合う力を培うこと、橋元教授はつながり依存の脱却について、藤原様はビデオオンデマンドによる授業配信プ

ラットフォームについて発表されました。会場からも多くの質問があり、それに回答するなど活発な討議がなされ、参加者の関心の高さが窺える成果発表会となりました。併設展示としては、教育関連企業、IT関連企業、団体から計43グループの出展がありました。



展示コーナー

閉会式、JAPETとCECの合併

閉会式はCECの鶴田雅文専務理事とJAPETの森本泰弘常務理事がご挨拶を申し上げ、CECとJAPETが合併することをお知らせいたしました。



閉会ご挨拶

CECは昭和61年7月宮島龍興氏を理事長として、「我が国の学校におけるコンピュータ利用促進のための基盤的技術を研究開発し、コンピュータを利用した教育に関して普及啓発する」ことを目的に設立されました。以来27年10ヶ月、教育用コンピュータ・システムCECコンセプトモデル87の試作を皮切りに教材ソフトウェアの試作、障害ある子ども向けの利用研究等の後、100校、新100校プロジェクトを展開して、インターネットの利用を啓発し全国的な研究実践活動が行われました。Eスクウェアでは情報技術を活用した教育手法の実践に注力し、オープンソース・ソフトウェア「Open School Platform」の実証実験を展開すると同時に「学校情報セキュリティ・ハンドブック」、「ネット社会の歩き方」等で安全な情報活用の啓発をしました。

近年、一般社団法人日本教育工学振興会(JAPET)と協議を重ねて「両団体の特長を活かし、教育の情報化をより一層推進する」団体として4月1日付けにて合併いたしました。

次年度はより一層内容を充実させた成果発表会「教育の情報化」推進フォーラムをご案内できると存じます。